

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
早稲田大学	1-1	<p>今シーズン、早稲田大学ラグビー蹴球部のスローガンは『Dynamic Challenge』です。具体的には、超攻撃的なディフェンスを軸とした予想のできない大胆かつ激しいアタックを80分間延々と繰り返すチームを目指します。</p> <p>主将：豊田将万を筆頭にDynamic Challengeを体現できる選手が揃っており、皆さんをわくわくさせるラグビーをお見せしたいと思います。新戦力につきましては、24名の選手が新たに加わりました。中でも、井口剛志と山下昂大はその中心的な存在です。チーム内の競争を活性化させ、そしてチームの重要な戦力として期待しております。</p>
明治大学	1-2	<p>今シーズンは杉本主将が掲げる「縦横無尽」をテーマに戦ってきています。「縦横無尽」とはグラウンドを広く使い、どこからでもトライを取ることが出来るラグビーです。</p> <p>明治大学といえば、故北島忠治監督が長年言い続けた「前へ」と言われる言葉で知られるようにFWが前にでてトライを取るラグビーで知られています。今年はその強みを生かしつつ、FWとBKが一体となり15人でボールを動かし、どこからでもトライを取れる「縦横無尽」のラグビーを目指しています。</p> <p>春シーズンでは、序盤の試合では今シーズンのテーマである「縦横無尽」のラグビーが出来なかったのですが、試合を重ねる度を目指している形が見えてきました。</p> <p>夏合宿で完成度を高め、対抗戦では新しい明治のラグビーをお見せします。</p> <p>新戦力に関しては、今年の春シーズンは数多くの一年生が試合を経験しました。その中でもSHの下村とFLの小河、そしてU20に選出されたPR小野など一年生らしからぬ積極的なプレーをしています。その他にも個性豊かな選手が多数おります。</p> <p>どの選手にもチャンスを与えているので、そのチャンスを活かせる様、より一層努力して紫紺のジャージを目指してもらいたいと考えています。</p>
慶應義塾大学	1-3	<p style="text-align: center;">【チームの特色】</p> <p>花崎主将の下、今シーズンの慶應は昨年度に所属していたスター選手が何人が抜けてしまった穴を埋めるべく、四年生全員でチームワークを重要視してきた。『チームが一つになる』『日本一になる個人』『全力を尽くす』という意味を含め、「ONE」というスローガンを四年生で掲げた。そして、フィットネス強化に重きを置くだけでなく、基本スキルやストレンクス強化にも積極的に取り組んできた。昨年度、果たせなかった大学選手権優勝に向け、チーム一丸となり邁進している。</p> <p style="text-align: center;">【新戦力】</p> <p>1年 仲宗根健太 (CTB、桐蔭学園出身)</p> <p>昨年度、桐蔭学園でキャプテンを務めた仲宗根は、高校1年から花園に出場し準優勝のメンバーとして活躍した。3年時には高校日本代表に選抜され、U-20にも選抜された。現在、縦に強いプレーヤーとして、大学一年生にしてメンバー争いに加わっている。</p>
帝京大学	1-4	<p style="text-align: center;">帝京大学 チームスローガン「ENJOY」&「TEAM WORK」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ENJOY」心技体を目標に適したレベルに鍛えあげ、実力をしっかり発揮し試合やプレーを存分に楽しむ。 ・「TEAM WORK」選手の個性や力、努力がお互いに繋がり合い、より大きな力を生み出す相乗効果を作り出す。 <p>2つのスローガンのもと、ルール改正を活かし、ダイナミックに仕掛け、如何なる場面においても相手にプレッシャーを与え続けるラグビーにチャレンジしていきます。</p> <p>シーズンを通してしっかり力を出し切り、対抗戦や大学選手権、そして、日本選手権といった大舞台に出場し、選手達にラグビーを存分に楽しんでもらいたい。</p> <p>ファンの皆様には、選手達のプレーを通じたメッセージから多くのことを受けとって頂き、チーム・選手との一体感を味わいお楽しみ下さい。皆様と共に大きな感動と喜びを分かち合える最高のシーズンにできるよう頑張っていきます。今シーズンも更なるご声援をどうぞ宜しくお願いします。</p> <p style="text-align: right;">新戦力</p> <p style="text-align: center;">LO ティム・オリバー・ボンド (NZ クライストチャーチボーイズハイスクール) SH 滑川 剛人 (桐蔭学園高校) SO 森田 佳寿 (御所工業高校)</p>

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
筑波大学	2-1	<p>報道関係者への新陣容説明会 今シーズンのチームの特色と新戦力について</p> <p>筑波大学</p> <p>今季、筑波大学は高木貴裕（HO・長崎北）を主将として、「確立 一堅・駆・克一」をチームスローガンにスタートしました。このチームスローガンには、昨シーズンの取組みを踏まえ、更に筑波のスタイルを確固たるものにするという想いが込められています。チームの特徴としては、全員が献身的なタックルができることと、互いのサポートを軸とした連続攻撃が挙げられます。2,8,9,10,15番に頼もしい選手がいることから、彼らを中心に僅かなチャンスを確実に得点に結びつけ、接戦を制したいと思います。昨シーズンはほぼ固定されたメンバーで戦ったため、卒業生のポジションには、公式戦での経験の少ない未知数な部分が残されています。特にバックローは全員が卒業したため、熾烈なレギュラー争いがみられます。夏合宿では運動量チームNO.1の宮城慎也（伏見工業：FL）、小柄だがスピードのある梶聡太（富田林：NO8）の2人の一年生がAチームでプレーしており、今後の成長を楽しみにしています。</p>
日本体育大学	2-2	<p>今シーズンのチームの特色と新戦力</p> <p>昨年度は大学選手権出場を逃してしまった。そこで今シーズンの目標は大学選手権に出場し勝利することとなった。春シーズンより、速い展開のラグビーを行うことを念頭に置きスピード、スタミナをつけるべく練習を行ってきた。北海道中標津町において行った夏合宿は今年で2年目となり、環境の良い中、「展開」「反応」「コンタクト」のスピードを意識しチームづくりを進めた。9月6日という過酷な条件での開幕に向けて残りのわずかな時間を有効に使いチームをまとめ、対抗戦を盛り上げられるようにしたい。</p> <p>今年度のチームは夏合宿にリーダーが決定した。主将、柴田（4年、貞光工業高等学校、LO）副主将、角田（4年、西陵商業高等学校、CTB）は体を張ってチームを引っ張る。FW、BKともに走力のあるチームとなった。新戦力としてはLO新関（1年、酒田工業高等学校）、FL/NO8安達（1年、青森北高等学校）、CTB辰川（1年、広島工業高等学校）が対抗戦出場を狙う。</p>
成蹊大学	2-3	<p>成蹊大学 特徴</p> <p>対抗戦チームの中では最も体が小さく、突出した選手もいませんが、チーム一丸となって果敢に挑むチームを目指しています。愚公移山のスローガンの元、タックルと基本プレーを重視し、春シーズンからひたすらタックル練習を繰り返しています。 ひるまず・あきらめず・粘り強くタックルし続けます。</p> <p>新戦力</p> <p>PR 福島 傑(フクシマ スグル) 3年 <成蹊高> 膝の怪我で昨年はプレーできませんでしたが、フィールドプレーもうまく機動力があり、スクラムの核となるプレーヤーです。</p> <p>WTB 浦野 周平(ウラノ シュウヘイ) 3年 <成蹊高> 昨年の出場は2試合だけでしたが、スピード・キレともにチームNO.1です。</p> <p>新人</p> <p>付属校の成蹊高校6人を含め14人が入学しました。レギュラーを狙う2選手を紹介します。 FL 永野 裕識(ナガノ ヒロシ) 1年 (成蹊高) 高校時代はバスケットボール部で、3年からラグビーを始めた選手。スピード、ハネには天性のものがあがり、バスケット仕込みの視野の広さとハンドリングも良いガッツの見える期待の新人です。 SH 太田 雅浩(オオタ マサヒロ) 1年 (茗溪学園高) スピードとボールさばきで高い能力を発揮しています。SOもこなすのでリザーブに入る実力を持っています。</p>
立教大学	2-4	<p>チームスローガンに「Strike」を掲げ、関東大学対抗戦Aグループでの戦いに再び挑戦いたします。チームターゲットは「3+α」です。3つ勝つこと、またたとえ敗れる試合でも何かを残したいという意味です。全国大学選手権出場を目指し、部員55名+スタッフ一丸となり、持ちうる力を精一杯出し切って戦う所存です。背丈も無く、体も小さい我々ですが、ただひたむきに、愚直に15人全員でボールを追い続けます。何卒宜しくお願いいたします。</p>

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
東海大学	3-1	<p>2008年度東海大学特色</p> <p>昨年度は、リーグ戦において初優勝したものの、大学選手権ではベスト8という結果に終わり、目標達成には至りませんでした。今年度は昨年度の反省を踏まえ、春シーズンから徹底的に基本プレーのトレーニングに取り組んでまいりました。特にコンタクトシチュエーションに重点をおき、激しさや低さにこだわってきました。それをベースにラグビーのスキルの向上に努め、さらにその中でも正確さを求め、チーム全体のレベルの底上げを図りました。また、U20日本代表に5名が選出され、世界の高いレベルを経験してきたことで、チーム内の競争も一層激化いたしました。夏合宿では、学生の自主性を尊重し、学生自らさらにレベルを高いところに設定し、チームとしての共通認識を高められるよう緊張感のある練習を重ねてきました。シーズンを通じて成長していけるよう、常にチャレンジすることを心がけ、自分たちの戦いを攻守にわたり貫いていくためにさらに精度を高めシーズンに臨んでまいります。</p> <p>目標である「リーグ戦全勝優勝・大学日本一・打倒トップリーグチーム」を目指し、1戦1戦大切にリーグ戦を戦っていきたいと思います。</p> <p>(新戦力)</p> <p>今年度は新人32名が加入し、その中でもLO安井、SO市原、WTB鶴ヶ崎らが、高いレベルで期待されます。怪我等で出遅れている選手も他にいますが、今後激しい競争に加わってくるメンバーも多数おります。</p>
関東学院大学	3-2	<p>関東学院大学ラグビー部2008年度新陣容、チームの特色、新戦力について</p> <p><新陣容></p> <p>監督：桜井勝則 主将：土佐 誠(4年) 副将：設楽哲也(4年) 主務：遠藤勇人(4年)</p> <p><チームの特色></p> <p>昨シーズンは、元部員の不祥事によりリーグ戦(最終戦)及び大学選手権を辞退することとなり、皆様には大変ご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございませんでした。</p> <p>今年度はチームスローガンに「Change and Challenge」を掲げ、選手(部員・スタッフ)一人ひとりが意識(ラグビーに対する考えや姿勢等)を改革(change)し今まで以上の気持ちを持って、練習(ラグビー)に取り組むことを合言葉にして春シーズンは選手それぞれが自ら限界に挑戦(challenge)してきました。シーズンに向けての準備(チーム作り)が、夏(菅平)合宿からと、本番までの時間が非常に短く、ある程度仕上げる事ができましたのも、昨年のメンバーが10人(FW=7人、BK=3人)残っておりますので、5つのポジションを補うことを優先し、今までのスタイル(ボールを早く動かし、グラウンドを大きく使う)を継続、それに、春シーズンの練習で自信をつけたスタミナを加え、試合毎に進化(成長)していけるよう「全員ラグビー」を目指して、まずは、リーグ戦初戦(対流通経済大学)を絶対に！勝つこと、それに、シーズンの目標である「大学選手権への出場」を目標に全員が気持ちを一新し、常に挑戦者という想いで日々練習に励んでおりますので、ご声援よろしくお願いたします。</p> <p><新戦力></p> <p>今年度の新戦力は29人です。それぞれが、優れたものを持っています。それを、どのように伸ばし、チームの中で生かすことができるかがスタッフ(監督、コーチ)として大切な役割だと思っています。そんな中で即戦力として期待のできる選手としては、PRの田中(佐賀工)でU-20の世界大会で自信をつけてきています。それに、同じくFWでHOの岡田(大工大)です。それと、BKはWTBの渡辺(桂)、小林(向上)でスピードのある選手で、今シーズン充分にレギュラーを狙えるレベルです。</p>
拓殖大学	3-3	<p>今年度の拓殖大学ラグビー部は、1年生からレギュラーで堅実なプレーをするキャプテンの浦川伸太郎がチームを引っばっています。その他のチームの柱は、セブンスジャパンで4年生の横山健一、ディフェンス力のある4年生の森谷和博、リーグ戦の得点王争い食い込んだ4年生のダニエル・ピーターズ、昨年度ルーキーで2年生の茂野洸気、帰国子女で2年生のニコラス・イーリ。</p> <p>また、新戦力では突破力のあるリチャード・ナータ、ジンバブエからの留学生でパワープレーヤーのキーナン・マレイ、ディフェンス力のある大江建介が注目の選手です。</p> <p>昨年度からの課題であったフィットネス力の向上を武器に、全員が走り個々の能力を活かしつつ今まで通りのスピードと展開力のある拓殖スタイルを確かなものにしていきたくと思っています。さらに、新ルールの施行により拓殖大学のおこなってきた継続力の強化が活かされると思っております。</p>
法政大学	3-4	<p>今年は、春より『セットプレー』『フィットネス』『ブレイクダウン』の3つを軸に、『個』としての基本プレーの徹底を行ってきました。中でもスクラムについては、スタート時と比較して、かなり成長した実感があり、更に強化する事により『セットプレー』の一部分として大きな期待を感じています。チームの特徴としては、フィールドを広く使い、何処からでも展開・攻撃でき、タックルも一発で仕留めるラグビーを目指しています。新戦力では東福岡高校出身の竹下(WTB)・伏見工業高校出身の宮田(ノ8)と春からAチームで試合に出場して、素晴らしいパフォーマンスを見せ、今シーズン大いに期待しています。また、今シーズンは、6月よりグラウンドの人工芝工事に伴い、専用の練習場所がなく、学校施設のグラウンドを探しながら練習しており、9月上旬頃までは練習環境は一時期厳しくなっています。しかし、今年こそ、法政大学ラグビー部の伝統を重んじながら、新たな法政ラグビーも創造し、また「チームの規律を重んじ」「人間としての個人」「学生としての個人」「闘う為の個人」「組織における個人」と個人に対する4つ理念を中心に、スローガンとして掲げたindividual revolutionの完成を今年こそ達成すべく、学生・スタッフと共に頂点を極めたいと考えています。</p>

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
大東文化大学	4-1	<p>今年度の大東文化大学ラグビー部は、「志【こころざし】—STRONGWILL—」をテーマに、主将の関戸（4年）・新川（4年）・森山（4年）など昨年からの中心選手を筆頭にまとまりのあるチームです。</p> <p>そして、新コーチへJAPANのコーチでもある、太田氏を招き例年以上のトレーニングを積み重ね、最後まで走りきるフィットネス強化に取り組んできました。</p> <p>攻撃面では、FWに7人制日本代表のレプハ・ラトゥイラ（3年）、ATQスコッドでフランス学生選抜戦に出場したシリベヌシ・ナウランギ（2年）、1年次からレギュラーの松田・大窪の両LOコンビ（3年）特に松田は今年度のU・20日本代表遠征へ参加し経験値を積んできました。BKでは、昨年限りでデビューした出村（2年）の安定したゲームメイクにオープン戦でケガからの完全復帰を果たした決定力抜群のシオネ・ファマオ・テアウパ（2年）と昨年以上です。</p> <p>防御面でもピンチをチャンスにする両FL・CTB陣の激しいディフェンスからのターンオーバー。また、全員が1対1では絶対に抜かれないタックルに力を入れ日々成長・進化を遂げています。</p> <p>観てくださるみなさんに伝統の激しく突破する迫力のあるラグビーを披露していきますので、応援よろしくお祈りします。</p>
中央大学	4-2	<p style="text-align: center;">中央大学</p> <p>今年の中央大学は、主将の小笠原和徳（LO盛岡工）、副将の藤原博之（NO8東筑）と三宅俊介（CTB久我山）が中心になり他の4年生（11人）と共に下級生を引っ張っている。部員数は60人と少ないが、お互いの競争意識・意欲がグラウンドや寮生活面にもでておりチーム全体のレベルアップにつながっている。</p> <p>今シーズンはELVがカギとなり、短い期間の中で対応していくことになった。まず、千葉（日本エアロビクス）の1次合宿では猛暑の中での体力アップと走り込みをおこないながら体で覚え、菅平の2次合宿でゲームを通してチームと個々のやるべきことを確認し合い、9月6日の初戦に向けたチーム作りをおこなってきた。</p> <p style="text-align: center;">チーム目標はリーグ戦優勝だが、昨年に引き続き大学選手権出場を確実にする為に、ひとつひとつ大事に戦っていききたい。</p> <p style="text-align: center;">新戦力として</p> <p>14人の新人が入ってきた。戦力としては、FWで、PRの藪田、小柄だが同じくPRの大和とHOの丸井。BKではWTB/FBの宇賀神に期待したい。</p>
流通経済大学	4-3	<p>『First thing first』をスローガンに春からラグビーに臨む姿勢や心構えを見直し、そしてセットフェイス、デフェンス、フィットネスを軸にラグビーパフォーマンス向上を図っております。</p> <p>新戦力としてブロップ今村、ロック小野寺、フランカー鹿田、ナンバー8イシレリ、SO小沢です。若手が多いチームですが、キャプテン夏目を中心に4年森谷、3年フィフィタ、4年金城がチームをまとめ、更に右肩上がりに上昇するチームとして今シーズンを戦っていきます。</p>
日本大学	4-4	<p style="text-align: center;">1. 今シーズンのチームの特色</p> <p style="text-align: center;">目標 …… 大学選手権ベスト4</p> <p>特色 …… セットプレーを支配し、80分間相手にプレッシャーを与え続け、ボールが良く動くラグビーをお見せしたいと考えております。また、キーはチームディフェンスとゲームマネジメント。上位チームに対しロースコアな試合展開を目指してまいります。</p> <p style="text-align: center;">昨年のレギュラーメンバーも多く、経験という観点での不安はありません。</p> <p style="text-align: center;">2. キープレーヤー</p> <p style="text-align: center;">FW …… 馬淵主将、BK …… 三友副将</p> <p style="text-align: center;">両名とも、チームの目指すスタイルを体現出来るリーダーであり、精神的支柱である。</p>

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
リコー	5-1	<p>We have a real focus on our core skills, conditioning, and utilizing the ELVs during the off-season. Our plan is to build through the season, focus on developing a Ricoh style of play. We are excited about the season.</p> <p>今年はコアスキル、コンディショニングとELVを活用する事をもとに春から取り組んできました。私たちのプランはシーズン中も積み上げていきます。リコーのプレースタイルの発展に焦点を当てております。シーズンを楽しみにしています。</p>
三菱重工相模原	5-2	<p>三菱重工相模原ダイナボアーズチーム紹介</p> <p>「勝者は王道を歩む」 3年後トップリーグベスト4を合言葉に3か年目標を実行中である。 今年は1年目としてまず、トップリーグ昇格に全力を注ぎ、日本選手権ベスト4を目指す。 チームスローガンは「S.T.A.R.T 勝者へのスタート」 Sacrifice；自分の大切なものを犠牲に Trust；仲間を信頼し自分のやるべきことに集中。 Action；自ら行動おこし、意識改革。 Responsibility；期待に応え自分の責任を果たす Tough；厳しい状況を跳ね返すタフさ</p> <p>2008年シーズンダイナボアーズは「王道」を歩むに値する「勝者」となるためにスタートを切る。ライバルに勝ち、今までの自分に勝ち、全ての試合に勝つこと。「勝者へのスタート」、「S.T.A.R.T」を合言葉に2008年ダイナボアーズは勝者への一歩を踏み出す。</p> <p>トロイフラベルをはじめとしてトップレベルの技量を持つ外国人選手を軸に、サポートしていく実力ある日本人プレーヤーとの融合、更には外国人選手という大駒をおとりに使い、ポテンシャル高いバックスを存分に走らせる展開が目標。また、日本初の中国人プレーヤー 賀 忠亮もインパクトプレーヤーとなることを期待したい。</p>
セコム	5-3	<p>セコムラグッツはポジティブな気持ちで2008年度シーズン「トップイーストリーグ11」の開幕に臨む。 昨シーズン終了後に多くの選手が引退したことをきっかけに、スタッフ・選手が一丸となってチームの雰囲気とカルチャーを変革してきた。</p> <p>春、夏シーズンのターゲットは、全選手に出場機会を与え、ELVに適応し、コンビネーションを磨くこと。またグラウンド内外において選手自身の手による責任意識をもたらすことだった。全般的にこれらの目標は達成でき、それがチームの自信となっている。これまで行った練習試合、JAL、NTTドコモ関西、東芝、ワールド戦での勝利。そしてホンダ、日本IBMと近鉄戦での惜敗により、ラグッツは強いチームと十分に勝負できることが分かった。</p> <p>シーズンで目立った選手としては、LO生沼、HO安藤、SH神尾、CTB姫野が挙げられる。バックローの新外国人選手・ジョネ・タワケとユーティリティーBKのティモシー・カランの2名は、特に若いメンバーに対して好影響をもたらし、チームへの貢献、試合中のインパクトなどチームにすっかり溶け込んできている。</p> <p>また日本人ルーキー選手の頑張りやチーム内の競争を活性化させ、ポジション争いは混戦を極めている。シニアプレーヤーのキャプテンWTB鈴木（貴）、FL渡邊、FB長井、PR山賀、HO安藤のリーダーシップには大いに期待しており、今シーズンのパフォーマンスに大きな影響を及ぼすであろう。最終的な目標はもちろんトップリーグへの復帰だが、常にこれを強調しすぎて選手にプレッシャーをかけてしまうより、試合ごとに目標を設定し、達成することに重点を置きたいと考えている。</p> <p>リコーと三菱重工相模原がトップリーグから降格してきて、競争が激しい1年間になることはチーム全員が十分に自覚している。良いチーム状態でシーズンインし、勝負どころであるシーズン後半に最高の状態に達せられるようにしていきたい。 ラグッツは、チームスローガンの「STEP UP」を胸に刻み、すべての試練に挑む覚悟でいる。今から開幕が楽しみだ。</p>
NTTコミュニケーションズ	5-4	<p>NTTコミュニケーションズ Shining Arcs (シャイニングアークス) ラグビー部</p> <p>『チームの特色』 今シーズンは、新たにオーストラリアからヘッドコーチとFWコーチ並びにストレンクスコーチを召集し、昨シーズンの反省と今シーズン予想される激戦を踏まえ、チーム全体の底上げと個々の強化に重点を置きチーム作りに取り組んでまいりました。 強固なディフェンスと確実なエリアコントロールで、どのような相手にも真正面からぶつかり勝利を掴み取り、トップイーストでの優勝とトップリーグの昇格を勝ち取りたいと思います。</p> <p>『新戦力』 新卒者7名による各ポジションの競争激化に加え、外国人選手JPネル（南ア）とブラッドリー ミカ（NZ）や元日本代表の栗原の加入によって、様々な相乗効果をもたらしてくれており、今シーズンの戦いが非常に楽しみである。</p>

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
サントリーフーズ	6-1	<p>トップイーストリーグ昇格3年目の今シーズン、サントリーフーズサンデルフィスは昨年以上の「究極のアタッキングラグビー」を目指し、80分間どの地域からでも攻め続けることが出来るよう、春先から徹底したトレーニングを行ってきました。今シーズンのキャッチフレーズは、「FULL HEART」。チーム全員で80分間フルに走り回り、相手を徹底的に粉碎します。また、今年は新人4選手に加え、トンガ7人制代表テウ・ムリ・カウフシ、前NECの百村彰二郎を戦力に加え、新たな陣容で戦いに挑みます。サントリーフーズ「サンデルフィス」は、兄貴分サントリー「サンゴリアス」との兄弟対決の実現を目指して、果敢にチャレンジを続けて参ります。今後とも皆様の応援を宜しくお願いします。</p>
東京ガス	6-2	<p>【東京ガスラグビー部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新主将：穂坂亘（SH・法政大）新副将：箱崎友己（FL・仙台育英高）という新体制で臨む。ヘッドコーチ不在だが、選手主体で「全員で考えるチーム」を目指し、運営を図っている。 ●今年度のスローガンは、「CHANGE」。体制も気持ちも一新させ、純粋にラグビーに取組む環境を作るためである。選手層も昨年以上に若返り、若手選手とベテラン選手が一体となって、リーグ戦優勝を目指す。 ●「SPEED ATTACK」をテーマとし、フィットネス強化を図ってきた。大きな相手に負けられないよう運動量が勝負する。弊部のスピードがどこまで通用するか、また低いタックルでどこまで止められるかがキーポイントと考えている。 <p>●新人紹介 今年度の新人は、9名。 中浜（CTB・慶大）、佐井（CTB/WTB・山梨学院大）、西尾（WTB・関西学院大）は、スピードがあり、「SPEED ATTACK」を体現できる即戦力と考えている。また、大学での経験で培ったリーダーシップを発揮し、チームに活力を与えてくれている。 黒木（PR・東海大）のパワーは大学屈指。セットプレーの要としてFWの核となる人材と期待している。 高卒新人の小林（PR・熊谷工）、佐藤（PR・秋田工）、内野（CTB・深谷高）、高野（SH・平工）は、体が大きく、将来性豊かな選手であり、2～3年後のレギュラー候補である。 6月に加入したジェームス・マハー（James Maher/No.8・カンタベリー大）は、2006年にNZ7人制代表、チーフスのスコットに選ばれた逸材であり、大きな戦力となることを期待している。非常に明るい性格で、チームにいい雰囲気をもたらしている。</p>
釜石シーウェイブス	6-3	<p>『今シーズンは新たにピタ・アラティニを主将に置き、早朝練習やミニキャンプを始め『鍛錬』を続けてきました。特にセットプレー、ベーシックスキル、ディフェンス練習に時間を割いてきました。釜石らしい、ひたむきなプレーができればと思っています。一企業チームでは無く、地域クラブとしても強いチームが出来る事を証明したいと思います。選手、スタッフ、地域、サポーター全ての知恵や力を結集して挑みたいと思っています。トップ3を目指します。』</p> <p>釜石シーウェイブスRFC ヘッドコーチ 池村 章宏</p>

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
栗田工業	7-1	<p>今シーズンのチームの特色と新戦力について</p> <p>栗田工業ラグビー部 監督 安藤 基行 【今シーズン目標】 チャレンジシリーズ出場権獲得</p> <p>【今シーズンのチームの特色】 『Gush your energy(いつも100%の自分を表現しよう)』をチームマに掲げ、伊藤主将を中心に日々厳しいトレーニングに取り組んでおります。課題であったセットプレーについても安定性が出てきており、チーム強化は確実に進んでおります。開幕戦へ向け、選手・スタッフ全員がチームの勝利のため100%の力を出し切りスローガンである『Gush your energy』を成し遂げ、目標であるチャレンジシリーズ出場権を獲得したいと思います。</p> <p>【新戦力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩下 和広(同志社大：PR) スクラム・モールにおいて核となる選手。 ・金城 憲人(流通経済大：PR) スクラムは安定しており、フィットネス高くレギュラー候補。 ・本村 旨嵩 (関東学院大：SH) 期待の大型SH、ディフェンス能力高くセンス抜群。 ・小林 法文 (埼玉工業大：CTB) 突き刺さるタックルは脅威。 ・石井 悠介(専修大：WTB) 力強いランニングでディフェンス突破、チームのトライゲッターに成長。 ・フィリップ ドーソン(NPCカヌード：SO) 精度の高いキックで敵陣へチームを進めるクリタの司令塔。
秋田ノーザンブレッツ	7-2	<p>クラブ発足5年目となる今季は、昨季の成績8位を上回る、5位を目標としております。昨季と比較し大幅にチーム力が向上しておりますので、是非とも今季目標を達成し、トップリーグ入りへの足がかりとしたいと考えております。</p>

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
日本航空	8-1	<p>2008 JALWINGS <新戦力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 荒木 直文 23歳 PR 182-115 筑波大学 2. 山内 泰士 23歳 LO 190-100 大東文化大学 3. 堀切 輝一 23歳 LO 184-105 慶応大学 4. 國崎 康生 23歳 LO 187-100 帝京大学 5. 升館 廣範 23歳 SH 170-68 大東文化大学 6. 新井 賢二 23歳 SO/CTB 181-85 帝京大学 7. 長谷川 幸祐 23歳 CTB/FB 175-88 拓殖大学 8. 久保田 祥弘 23歳 WTB 178-78 帝京大学 9. アラスカ タウファ 25歳 CTB/FB 190-95 トンガ高校 10. 吉村 篤弘 23歳 PR 176-110 帝京大学 (秋入社の為、今年度は未登録) <p><新戦力コメント> 数年来の課題であった高さに加え、手薄なポジションの補強に成功。パワーにスピード、高さに精度の高いキック等々芸を持った選手が多く、対戦相手により入替えも可能なぐらい能力の高い選手が多く入部した。春シーズンには全員がAチームを経験し各々の持ち味を出している。</p> <p><チームの特色> 試験的の導入もあり今季JALWINGSが掲げたものは『ATTACK』です。自陣からでも積極的にボールを動かし、攻撃的なラグビーでTRYを目指します。</p> <p>特色は『意図的な動きの中から決定的な場面を創り出す』をテーマに昼夜練習に励み夏合宿には大きな成果も出せました。BKS3のスピードに注目して下さい。</p>
日野自動車	8-2	<p><チーム> 日野自動車ラグビー部 (レッドドルフィンズ)</p> <p><チーム紹介コメント> 幣部は、創部 昭和25年の伝統あるチームです。過去には全国大会にも出場し、日本代表選手も輩出してあります。「トッピーズリーグ」へは、今シーズンより初参戦することになりました。</p> <p>今シーズンのチームコンセプトは、「NO LIMIT」。日野が今まで経験したことがないレベルへの「挑戦」であり、チーム一丸となって戦う所存です。</p> <p>チームの特色としては、主将の三田、副将の橋爪を中心にチーム一体となって繋ぐラグビーを目指しております。</p> <p>また、フィジー代表のスキッパー経験があるケレ・レアウエレの力強いプレーにも注目して下さい。</p> <p>強豪がひしめく「トッピーズリーグ」ですが、一戦一戦「全力」で戦いますので宜しくお願い致します。</p>

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
タマリバクラブ	9-1	<p>タマリバクラブは2000年に、早稲田ラグビー部OBと、住友商事の社員とが中心になって創設しました。平日は好きな仕事に励みつつも本気のラグビーを続け、いずれは公式の場で社会人や学生チームを倒す。一方で地域に根差したクラブとして生涯スポーツを支える場を創りたい。これらの二つの理念を当初より掲げてきました。</p> <p>チーム名には、「ラグビーを愛好する者たちの”溜まり場”」ということと、発足当時の活動拠点であった「多摩川 = Tama River」この二つの意味が込められています。</p> <p>昨年に続き今年も約15名の新人が加わり、若い力と昨年来の戦力との融合を図ります。タックルを基本としたコンタクトフィットネスを重点的に鍛え、DFを軸に戦いを進めていきたいです。</p>
高麗クラブ	9-2	<p>チーム名「高麗」~ KORYO RUGBY FOOT BALL CLUB ~</p> <p>所 属:東日本TOPクラブリーグ ディビジョン1 設 立:1977年 (創部31年目) 経緯等:チーム母体は東京朝鮮高校ラグビー部 現在メンバーは、在日朝鮮人、韓国人のみで構成され東京朝鮮高校、大阪朝鮮高校、神奈川朝鮮高校、朝鮮大学の卒業生45名が在籍。 現状は母校である東京朝鮮高校を全面的にサポート、オーバー35チーム、TOPチーム(A&B)の3チーム。 TEAM作りは、強さを徹底的に追求するを掲げ、在日ラグビーの強さ、楽しさを求める。 クラブラグビーを通じて、日本の方々との交流を深める事。 心技体を兼ね備えたTEAM作りを目標に、地域の方々との交流、全国のクラブラグーマン達との交流、そして<日本選手権でクラブ1勝>に大きく貢献すること。 我々の活動を理解していただき、多くの在日の子供達、そして日本の子供達へRUGBYの素晴らしさを伝えていく事。</p> <p>○ 2008年度TEAMの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新戦力の加入、朝鮮大学校を本年度卒業しクラブへの入団者が4名、東京朝鮮高校を卒業し入団したメンバー2名、他大学卒業メンバー2名の計8名の新戦力。 ・ 攻撃に繋がる低いタックル、ディフェンスの強化。 ・ 高麗主将(CTB 申ハンソル)を中心としたスピードのあるBK陣。 ・ FWの平均体重87kg、新戦力朝鮮大学校卒22歳のFL(ホン ファンフォン)選手に注目。 ・ 80分戦えるフィットネスを目標に練習を重ね、起動力を重視したチーム作り。 ・ 東京朝鮮高校で学んだ練習は嘘をつかないを実践する。 <p>目の前の敵を恐れず、朝高伝統の低いタックルを実践すること。 毎週火曜日、木曜日の平日練習、母校の人工芝グラウンドの年間契約により20時~22時までの2時間の練習、日曜日は練習試合を実施している。 今年はより攻撃的なディフェンスを課題に準備してまいりました。</p>

平成20年度 「今シーズンのチームの特色と新戦力について」

チーム名	ページ	特色・新戦力
北海道バーバリアンズ	10-1	<p>1975年、「高校の授業でボールに触ったことがある」というだけの5人の若者が、グラウンドに集まったことから北海道バーバリアンズは誕生しました。その後83年に複数チーム制・セレクションパネル・招待選手制を導入、01年にはジュニア・Over35チームの立ち上げなどクラブ組織へと変貌を遂げ始めました。</p> <p>そして、07年にクラブの「夢」である芝生グラウンドを取得し、現在は地域密着・地域内での価値向上を念頭に活動しています。</p> <p>今年は世代交代が進みつつあります。</p> <p>マンガン(プロップ)、加藤(ロック)、奥村(ナンバー8)、北村(ハーフ)、コリンズ(センター)、中川(センター)、などが主力として活躍しています。</p> <p>今年こそは、頂点を目指します。</p>
三鷹オールカマーズ	10-2	<p style="text-align: center;">チーム紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 三鷹オールカマーズ □ 設立年次=1978年5月 □ 登録会員=87 <p style="text-align: center;">[チーム発足の経緯]</p> <p>東京大学三鷹寮グラウンドで練習していた地域のラグーマンと在寮中の東京大学ラグビー部との出会いにより地域のラグーマンたちが自発的に集まりクラブ創設。～現在に至る。</p> <p style="text-align: center;">[チームが目指すもの](競技力、クラブとして)</p> <p style="text-align: center;">チームの基本理念、『地域に根ざしたラグビー!』</p> <p>チビッコからオジサンまで、誰でもラグビーを楽しむことができる環境作りを目指しております。また競技力としましてシニアチームは、『三鷹市から全国へ』をテーマに活動しております。</p> <p style="text-align: center;">(普及活動)</p> <p>近隣の高校生を中心に15人でやるラグビーの楽しさを感じてもらおうと活動してきました。4年前より東京都多摩地区の高校生を中心とした大会を毎年秋に開催しております。年々参加校も増え徐々にですが大会規模も大きくなって参りました。今秋も開催を予定しております。</p> <p style="text-align: center;">[今年のチームの特徴・戦い方]</p> <p>著名な選手がいないぶん初戦からメンバー全員でベストを尽くしフォアザチームで昨年の悔しさを晴らせるようチャレンジしていきたいと思えます。</p>